

県下の交通事故 (2月28日現在)

区分 年別	事故件数	死者	傷者
59年	559件	12人	757人
60年	513件	17人	637人
比較	-8.2%	+41.7%	-15.9%



◇第67号◇

発行所

甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552) 37-7827

春の全国交通安全運動

—4月6日～4月15日—

新入学(園)児など子供の安全を

昭和六十年春の全国交通安全運動は、四月六日から十五日までの十日間、全国一斉に実施されます。本県では、交通安全本部で決定した運動の重点、①新入学(園)児を中心とした子供の交通安全、②シートベルト・ヘルメット着用等の徹底、③二輪車を中心とした無謀運転の追放のほかに、飲酒運転の絶滅を加え、四つの目標をたてて運動を展開することになりました。昨年は、交通事故死者が前年に比べて大幅に減少し、減少率全国第五位の良い結果をみることができました。しかし三年連続死者百人を超え、本年も当初から死亡事故が多発の傾向にあり、これに歯止めをかけて、ことしこそ抑止目標二ケタ以下を達成するため、県民総ぐるみの運動を展開することになっています。

バイクの事故を防ぐ

飲酒運転の絶滅も重点

この運動は、広く県民に交通安全思想、交通道徳を普及徹底し、正しい交通ルールとマナーの実践を習慣付けることにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的として行われます。県交通安全対策本部が決められたおもな運動のすめ方は次のとおりです。

新入学(園)児を中心とした子供の交通安全
歩行者、自転車利用者の交通事故を防止するために、
一、歩行者
二、街頭における保護誘導活動の促進
三、通学(園)路を中心とした歩行者用道路の

安全確保
一、学校周辺、商店街、住宅街等の安全な交通環境の確保
二、視覚障害者用点字ブロック等の点検整備と障害物の排除
三、自転車
四、自転車の安全利用確保のための道路交通環境

飲酒運転の絶滅
一、飲酒運転を絶滅するため飲酒運転を減らすための運動の推進(運転する人なら飲まない)「運転する人なら飲まない」
二、酒類提供業者の協力による飲酒運転の抑止
三、家庭、地域、地域で飲酒運転をしない話し合いの推進

の広報
一、学校、事業所における指導の強化
二、二輪車を中心とした無謀運転の追放
三、交通マナーとモラルの向上を図るために
四、重大事故につながる違反の指導取締り強化(飲酒運転、無免許運転、最高速度、はみ出し禁止違反、歩行者妨害、信号無視、優先通行妨害等)

の広報
一、重大事故につながる違反の指導取締り強化(飲酒運転、無免許運転、最高速度、はみ出し禁止違反、歩行者妨害、信号無視、優先通行妨害等)

の広報
一、重大事故につながる違反の指導取締り強化(飲酒運転、無免許運転、最高速度、はみ出し禁止違反、歩行者妨害、信号無視、優先通行妨害等)



「シートベルト いつも乗るたび乗せるたび」

安全のために
日本人の寿命は、いまや世界一となり、日本経済の中核的役割を果たしている人たちの大部分は、六十歳を超えています。七十歳代になって、はじめて老人クラブへ顔を出したという人もあるし、まだまだこれからだと考えている人もかなりいるようです。自動車を使用する年代も高齢化し、八十歳を超えてからなお毎日車を運転している人も珍しくありません。人の老化は、俗に「目〇〇」と言われるように肉体的に自覚されます。精神的にはまだまだと思っても肉体的にはいかんともし難い場合がしばしばあります。

高齢者との車の運転
山梨県交通安全協会 専務理事 塩川光男

ゆる認知のおくれです。視覚情報ははやくとらえるためには、まず、優秀な視覚機能が必要です。

☆ 高齢になると動体視力が低下します。すなわち、目の焦点調節機能が悪くなり、運転者の目は、常に焦点を移動して対象の動きを正確にとらえ、これに

対応した運転操作を行うもめです。プラスチックが古くなって黄色味を増してくると同じで、人間のレンズも次第に変色してきます。いわゆる軽度の白内障です。こうなると光の透過性も悪くなり、一般に蛍光灯照明より白色電球を好むようになり、このような変化は、ごく自然に変化しますので、

本人は動体視力が低下しているなどとはまったく意識していないのが特徴です。

☆ 老化した現象としては、車間距離を異常に長くとり、停止した際、車との距離を不必要に長くとり、本人が早い機会に必要以上に作用した結果であって、このような運転

の広報

一、重大事故につながる違反の指導取締り強化(飲酒運転、無免許運転、最高速度、はみ出し禁止違反、歩行者妨害、信号無視、優先通行妨害等)

の広報

一、重大事故につながる違反の指導取締り強化(飲酒運転、無免許運転、最高速度、はみ出し禁止違反、歩行者妨害、信号無視、優先通行妨害等)



正しい基本姿勢で

交差点

希望をもって輝かしい昭和六十年の新春を迎えられたことと思います。ことしは昭和と暦、あてのいまわしい戦争が終わつてから四十年目を迎え、意義深い節目と言えましよう。平和の尊さが身にしみることです。

高度に発展した交通社会の中で、全国の運転免許人口は五千万人を超え、原動機付自転車を含めた車両保有台数は六千四百万台に近づき、県内でも免許保有者四十万人、車両台数も六十万台に近づくと、過密混合化の傾向が一層進んでいる情勢です。

このような中で、昨年の交通死亡事故は、全国では前年に比べて若干減少したものの三年連続して死者が九千人を超え、県内でも死者百人を超えて二ケタ以内の抑止目標を達成することができませんでした。

ことしこそは交通事故抑止を願っているものの変化をうかがうべきです。一月二十八日の早朝、長野市郊外で体育実習のスキー練習に行く大学生の乗ったバスが、急カーブを曲がり切れず、崖に落ちて乗客、運転手ら二十五人が亡くなる事故が発生し、冷たい水に命を奪われた方々はいまにも痛ましい限りです。

事故が何故起こったのか、道路凍結のためか、スピードの出過ぎか、あるいは労働や道路管理に問題があったか、その原因はさだかではありません。しかし、ちよつとした不注意や無理をしたことが大惨事を招いたというのを警鐘として受けとめて安全という基本を確認すべきではないでしょうか。自らの足をみつけ、基本にたかちかえ、それぞれの立場から交通安全人としての役割を果たして、安全な社会づくりに貢献したいものです。

南部安協を全国表彰

第25回交通安全全国国民運動中央大会開く

全日本交通安全協会と都道府県交通安全協会主催、総務庁、警察庁など関係省庁、団体後援の「第25回交通安全全国国民運動中央大会」が一月二十一日、二十二日の両日東京で開催されました。

第一日目は、麹町会館など四会場、「地域」「企業」「婦人」「子ども」の四部会にわかれて分科集會を行い、関係講師の講演のあと指定



皇太子・同妃両殿下のご臨席を仰ぐ中央大会

都道府県代表の意見発表と討議が行われました。

本県から地域部会に南部安協・内野光徳会長、大月安協・鈴木要吉監事、都留市・天野健氏、企業部会に葦崎安管協・守屋文訓副会長、合同タクシー・小沢照彦社長、婦人部会に長坂友ドラ・向井フミ会長、甲府警察署・塚原清美交通巡視員が出席しました。

第二日目は、全国勤労青

宣言

昭和五十九年中の交通事故は、前年よりやや減少したものの、いぜんとして多発し、年間死亡者数は、三年連続して九千人を超えた。なかでも、若者による無謀運転、自動二輪車・原動機付自転車による事故が多発するなど、まことに憂慮にたえないものがある。

ここに第二十五回交通安全全国国民運動中央大会を開催するにあたり、交通安全は相互に思いやりと助けあいの精神を基本とし、生涯にわたる教育の充実が肝要であることとを銘記し、次の諸対策を強力に推進することを誓う。

- 一、シートベルト、幼児用安全シート、ヘルメットの着用
- 二、運転者、とくに若年運転者に対する安全教育
- 三、自動二輪車、原動機付自転車の安全利用
- 四、歩行者、自転車、とくに高齢者と子どもの事故防止
- 五、企業等における交通事故の防止

右宣言する。

昭和六十年一月二十一日
第二十五回交通安全全国国民運動中央大会

おんせん一家い



交通安全賞章に輝く

寺田 正雄氏

寺田さんは、昭和三十年から富士吉田安協役員として

て入会し、下吉田副支部長、同支部長、同四十二年四月から富士吉田安協副会長、同五十九年四月から下吉田支部相談役を歴任し、また、同三十五年五月から五十九年三月まで県安協評議員として尽力しましたが、永年にわたる交通安全のために献身的に努力した功績が認められ、交通安全功労者として緑十字銀章を受章しました。三十年間交通安全活動の先頭にたつて安全意識の向上と事故防止に貢献し、

鈴木 要吉氏

鈴木さんは、昭和三十五年大月安協理事に、同四十九年から現在まで同安協監

その実績は高く評価されています。

我が家の交通安全作文
中込さんに
最優秀賞

少年会館で全国各地で交通安全に尽力している二百二十一人が参集し、盛會のうちに本会議が開かれました。本会議には第二十五回目を記念し、皇太子、同妃両殿下がご臨席になつてお言葉をお賜わり、中曽根内閣総理大臣(代理)など来賓の祝辞がありました。また、各部会の議長から討議の結果が報告され、思いやりと助けあいの精神を基本とし、生涯教育を充実するため、諸対策を推進することを誓う大会宣言を採択しました。

続いて、交通安全功労者、優良運転者、交通安全功労団体等の表彰が行われましたが、本県関係の受賞者は次のとおりです。

(緑十字金章)

優良運転者

富士急行 渡辺 恭

(緑十字銀章)

交通安全功労者

大月安協監事 鈴木要吉

富士吉田安協下吉田支部 相談役 寺田正雄

優良運転者 天野 健

都留市 遠藤 武

下部町

(全日交会長表彰)

交通安全優良団体

長坂警察署管内女性下ラ イバーの会連合会

交通安全優秀事業所 株式会社合同タクシー

交通安全功労者 中富町立中富中学校

優良交通安全協会 南部交通安全協会

優良交通安全協理者協議会 葦崎安全運転管理者協議会

交通安全に対する国民の意識の高まりと、関係機関、団体の努力により、昭和四十六年以来減少を続けてきた我が国の交通事故による死者の数は、この数年米来残念ながら増加の方向に向つており、その数が少なくなりましたことは、誠に喜ばしいこととあります。

この時に当たり、第二十五回の記念すべき交通安全全国国民運動中央大会が開催され、交通安全運動に尽力されている皆さんが一同に会し、交通安全を更に減少させるためのこの運動を一層推進しようとするのは、たいへん意義深いことであると思います。ここに本日表彰を受けた方々を始め、関係の皆さんの日頃の努力に対し深く敬意を表したいと思います。

交通事故防止には、これまで様々な工夫がなされ、たゆみない努力が払われてきておりますが、最も大切なことは、国民一人一人が生命の尊厳を改めて認識し、思いやりのある社会を築こうと努めることであると考へます。

現在、一年間の死者は九千人を超えており、毎年一万人に近い人々が交通事故で亡くなつていくことは誠に痛ましいことであり、特にそれぞれの家族にとつて極めて大切な人を失つた気持ちは察するに余りあるものがあります。

戦争が終つて四十年目を迎える本年の年頭に当たり、生命の尊厳を一層心に刻み、国民の皆さん一人一人が交通安全運動をますます盛り立てることにより、この運動が大きな成果を収めるよう切に望んでやみません。

我が家の交通安全作文
中込さんに
最優秀賞

総務庁では、「交通安全家族会議」の普及を図るため、全国から、我が家の交通安全全作文を募集しましたが、昭和五十九年度募集に応募した、中道町・中込敬子さんの作品を表彰しました。

我が家の交通安全

中道町 中込 敬子



た。つらい、やしい、さびしい、いい知れようのない気分のいい、そんな一夜だった。

昭和五十九年五月二十七日、高校三年の息子がバイクで掃校途中大型トラックにはねられたときの日記である。交通事故死、それは遠いよその人の出来事のように思つて、我が身にふりかかるとは、そのときトラックの運転手が憎くてたまらなかつた。

息子の写真の前で涙に明け暮れし、仕事に力が入らない何日かが過ぎた。ふと

あるか身をもちて体験したのである。

そつた今からでもいい、まだ二人の子供があるのだから、と心を新たに、家族で交通安全について話し合うことを約束した。

長女は高校に、次女は中学になり、学校も遠く、バイクや自転車を通つたようになった。

毎週日曜の夜は、交通安全について話し合ひをすることに決めた。決めたことは、使わぬカレンダーの裏に大きく書いて、よく目につく居間のかべにつるし、必ず守ろうと約束した。

バイクに乗るときは必ずヘルメットをかぶろう。登校は早めに出る。時間にゆとりをもつて行く(十分早くおき十分

た。本県初の最優秀の入選であり、この快挙は称賛されています。

また、中学生の部に応募した下吉田中三年・田辺智子さんにも佳作に入選し、総務庁交通安全対策室長賞を受けました。お二人の受賞をお祝い申しあげ、最優秀作を紹介いたします。

早く出発すること。

一 自転車にのるときは一列で。

一 掃校がおそく、暗くなつたときは、白っぽい上衣を着る(毎日持たせておくこと)。

一 特にお父さんは酒をのんだら、絶対に運転をしないこと。

など……毎週、次から次へと意見が出た。

以前は、学校のことはか注意して、学校でも今は、「交通事故のないよう」というのが口ぐせのようになった。一日何事もなく、家族が揃つて夕飯をいただくとき、この上もない幸福を感じます。

娘たちも東京の大学に行くようになり、手紙や電話のやりとりをよくします。

そんなとき、学校のことは勿論だが必ず、「交通事故のないよう」ね、「お父さん、お母さん、年々だから気を付けてね」と書き添えてくれます。私も他の用事で電話をしても、「交通ルールを守りなさい、特に東京はめまぐるしいところだから」と注意します。

交通安全の守れるよう女子供は、きつと校則をよく守り、正しい学生生活ができると信じています。我が生涯の最悪の日から十年の歳月が流れました。息子もつと小さいときからこのようなしつけをしてきたら、自責の念にかられてなりません。

出来てしまったことはしませんが、それだけの運命とあきらめてはいるものの思い出すと溢れる涙をどうすることもできません。

このように悲しい、くやしい思いは、ほかの誰にもさせたくない……だから今からでもいい、家族はみんな、地域ぐるみみんなで、交通ルールを守りましょうと話し合ひ、注意し合つて行きたいと誓っています。

中込さんに
最優秀賞

我が家の交通安全作文

総務庁では、「交通安全家族会議」の普及を図るため、全国から、我が家の交通安全全作文を募集しましたが、昭和五十九年度募集に応募した、中道町・中込敬子さんの作品を表彰しました。

交通安全に対する国民の意識の高まりと、関係機関、団体の努力により、昭和四十六年以来減少を続けてきた我が国の交通事故による死者の数は、この数年米来残念ながら増加の方向に向つており、その数が少なくなりましたことは、誠に喜ばしいこととあります。

この時に当たり、第二十五回の記念すべき交通安全全国国民運動中央大会が開催され、交通安全を更に減少させるためのこの運動を一層推進しようとするのは、たいへん意義深いことであると思います。ここに本日表彰を受けた方々を始め、関係の皆さんの日頃の努力に対し深く敬意を表したいと思います。

昨年の交通事故

死者大幅に減る！ 減少率全国5位に 原付車事故は激増

全国の事故

警察庁がまとめた昭和五十九年中の全国の交通事故は、発生五十一万八千八百八十八件(概数)死者九千二百六十二人、傷者六十四万三千三百三十三人(概数)といずれも前年比で減少し、死者は前年比二百五十八人二・七%減少したものの、三年連続九千人台となりました。

交通事故死者は、昭和四十五年をピークに五十四年まで九年連続減少しましたが、その後再び増加傾向となり、五十七年から九千九人の大台を超えています。都道府県別にみますと、前年対比で十八府県が増加し、減少したのは山梨を含めて二十九都道府県です。

本県の事故

昭和五十九年中の本県の交通事故は、発生四千四百六十件、死者百三十三人、傷者五千七百五十六人で、前年比で件数は百六十六件二・五%、死者は二十五人二・五%、傷者は百二十一人一・九%といずれも減少しました。

ことしは二ケタ以内に 死亡事故抑止に全力

一県警一

本県の交通事故死者は、昭和四十四年の二百二十七人をピークに減少傾向にありましたが、昭和五十二年から再び増え、昭和五十九年までの九年間で死者は百三十三人、前年比で著しく減少しましたが、人口十万人当りの死者は二・二六二人で、全国ワースト第二、三位という厳しい交通情勢であります。

死亡事故の特徴は、横断歩行中と自動車運転中の事故が減少したのに対し、自動車二輪車や原付車運転中の事故が増加していることが目立っています。

死亡事故の特徴傾向 昨年の死亡事故のおもな原因は、人口十万人当りの死者数は、全国平均七・七五人に対し本県は二・二七人、茨城・佐賀両県に次いでワースト三位であり、依然として交通危険度の高い交通環境にありま

特徴傾向は次のとおりです。○スピード違反、酒酔い運転、居眠り運転等の無謀運転によるものが五十二件五十六人と過半数を占めています。

交通死亡事故の抑止」を掲げて強力な対策を展開することとし、交通事故による死者抑止目標は、昨年到现在「交通事故死者二ケタ以内(九十九人以下)」と定められました。

一、良好な交通環境の整備 二、運転者対策の積極的な推進 三、効果的な交通指導取締り 四、暴走族対策の強化 五、飲酒運転追放対策の推進 六、二輪車対策の推進 七、高速道路における安全円滑な交通の確保 八、交通安全教育及び安全思想の普及徹底

重点対策として実施することとしています。



ロンドン中心部の交差点の状況

昨年十一月、ヨーロッパ諸国の都市交通事情について調査、視察する機会をいただいた。訪問したのは、イギリス(ロンドン)ドイツ(ケルン、ミュンヘン)イタリア(ローマ、ナポリ)スペイン(マドリッド)スイス(ジュネーブ)フランス(パリ)の六カ国だった。

訪問した各国の中で最初にイギリスについて報告し、次にその他の国について

ふれたいと思う。現地では大使館員をはじめ、ガイドやバスの運転手など、なるべく多くの人から話を聞くようにしたが、なにぶんにも駆け足で視察したため表面的な結果になっていることとを断わりしておく。

この抑止目標を達成するために県警察では

はシートベルトを着用しないとい五〇ポンド(一万六千円)の罰金だといった考え方が

警察庁は、厳しい交通情勢に対応し、シートベルトやヘルメットの着用義務化

五カ国はいずれも車が右側を走っているが、イギリスだけは日本と同じように車が左側を走っているからだ。初めてロンドンの街を見た私にとって最初に目についたのは信号機だった。

機も街にマッチした風格のある形のものが多かった。イギリスではよく車優先といふことがいわれることだが、歩行者向けや自転車向けの信号機や標識、道路に書かれた「右(左)を見よ」の標識など、歩行者、自転車利用者に対する気配りがみられた。かえって歩行者の方で赤信号のと

対する教育が徹底していること。また九歳までの子供については親に責任があるとの考え方が確立されているからだという。

ロンドンでは前記のように狭い道路が多い。その中で二階建てのバスがひんげんに走り、また利用者も多いと思つた。街全体が日本人にとつて親しみやすい印象であった。

シートベルト着用義務づけ 道路交通法改正案

シートベルトを着用しないとい五〇ポンド(一万六千円)の罰金だといった考え方が、それにしても訪問した他の五カ国にも罰金が課せられていた。これは意外だった。

山梨県交通安全協会会員の ための災害共済のお奨め 万人は一人のために一人は万人のために

シートベルト着用を 義務づけ 道路交通法改正案

自動車や原付自転車には 必ず 自賠責保険と 任意の自動車保険を つけましょう。

損害保険代理店 株式会社たいよう共済山梨支店

初心にかえって

大月東中3年 阿久沢みどり



去年の二月二日の夜、父は交通事故にあい意識不明のまま病院に運ばれました。事故以来、一歩も病棟に入ることができず、やっと意識をとりもとした父に会えたのはその日から二か月後のことでした。ベットに横たわっている父の姿、「お父さん」と言っただけ。

やせ細り、やさしかった父の面影は全くありません。母は私をベットのそばへ連れていき、「お父さん、みどりだよ、分かるでしょう」と何度も聞きました。けれども父は私の顔をチラッと見ただけで、すぐに目を閉

じてしまいました。「お父さん、分からないの、みどりでしょ」という母の声も父には聞こえないようでした。

病室を出た私に母は「お父さん今日はちよつと気分が悪かったんだよ。本当はみどりの事分かったんだよ」と声をうつまらせていました。

それは母の下手なうそであることがわかりましたが、私はだまっていようとしていました。

あれから一年半、残念ながら父は自分で食事をすることも、人を見分けることもできない人間になってしま

まいました。元気があった頃の父にはもう戻ってこれないでしょう。

現在、父の病院には、交通事故のため植物人間のようになってしまった人々がたくさん入院しています。そして毎日のように重傷患者が救急車で運ばれてきます。

我が国の交通安全対策がこのままの状態では、昭和五十八年一年間の人身にかかわる交通事故件数が一四二件、死者二名、負傷者一七一名、昭和五十九年度は九月十九日現在で二〇〇件、死者六名、負傷者二二二名と聞いています。

さらに九月十一日の新聞には「運転免許保有率五千万人を突破、八月末で国民の二人に一人がドライバーとなった」と警察庁発表が

報道されていきました。特にその中で山梨県は全国で五番目に高い六三・六%の運転免許保有率であることについて驚きました。

こんなに多くのドライバーがハンドルをにぎっている現代の社会で交通安全を確保するためにどのような対策をとったら良いのでしょうか。

自動車は本来人間生活を豊かにするために生まれてきたものだと思います。他に人に迷惑をかけるものではないはず。けれども現実には自動車騒音や排気ガス、交通事故が原因で、困っているのだらうかと考えてみました。勿論事故にはそれぞれ原因があるのですが、飲酒運転にしても、わき見運転にしても運転者のちよつとした気のゆるみが事故の原因に



シートベルトの着用はドライバーの安全運転の第一です

なっているといます。「ちよつとした気のゆるみをなくすこと」、「なんだそんなことか」と思われる簡単なことですが、これはドライバーの皆さんにどうしてはならない大切なことなのです。

私たちはどうにもならなくなつたとき、せつぱつた時、初心にかえれと教えられてきました。交通地獄とさえいわれた今日の社会はせつぱつた時だと思えます。運転者を含めた国民すべてが交通安全運動の初心にかえれる時ではないでしょうか。

初心にかえり、この初心をななくすこと。勿論これは運転者自身の問題かも知れませんが、しかし今日の交通安全運動が、各方面に中広い運動を進めてきたのにもかわらず、真に国民全体のものになっていないか、つたのではないのでしょうか。今こそ命を大切に、安全を守るという運動の初心にかえり、私達子供も家族も含めた国民全体の大運動として盛り上げる時だと思

当然、私たち中学生も明るい社会づくりの一員として、この安全運動に進んで参加しなければなりません。こうした運動をおして、きつと皆さんのハンドルをにぎる手に私たちの心が通じ、国民すべての悲願であり、そして私の家族の祈りでもある交通安全確保の日が必ず来ると信じます。

(山梨県中学生交通安全弁論大会入選者)

地区だより



国道137号線緑地帯に太陽電池発光体をつけた交通安全広報塔を設置(石和)



年頭に交通安全を祈願し市内パレードを(塩山)



路面凍結によるスリップ事故防止のため危険箇所看板100本を設置(富士吉田)

思いやりと譲り合いの心を育てよう

母親活動推進大会

一県交母連一

県交通安全母の会連合会(鶴田美枝会長)は、二月二十日、県農業共済会館で第十四回目の交通安全母親活動推進大会と指導者講習会を開きました。

大会は、望月県知事(代理)、古川県警本部長、中村県安協会長(代理)など来賓を迎え各地区交母役員四百人余が出席して行われました。

生きたか、県警交通部長・塚田浩夫氏の「安全な山梨づくりのために」と題する講演を聞き研修しました。

さらに、昨年の県中学生交通安全弁論大会の優秀者甲府北東中・名取恵美さんの弁論発表があり、つづいて長坂・南部交母会長らによる各地の発表がありました。最後に各地区交母役員による歌や踊りがひろわれ、母親活動指導者としての研修と士気高揚のための有意義な大会を終るこ

とができました。

交通安全を
武田神社で祈願
県安協と県警交通関係者は、一月十日、武田神社で恒例の交通安全の祈願を行いました。

県警から古川定昭本部長をはじめ交通部長、交通機動隊員、県安協から中村太郎会長ら役員等七十五名と白バイ、パトカーが参列し、社前でお祓いをつけて、ことし一年の交通安全と事故防止を祈願しました。

昨年、県内では交通事故の死者が百三人で、前年より二十五人の減少となり、また、念願の二ヶ台を達成することができました。

ことしこそ二ヶ台以下をめざして関係者一同が一層努力することを誓い合いました。

山梨県交通安全協会では新しく次の映画を購入しました。無料でお貸しいたします。ご利用ください。

一、交通死ゼロの決め手
シートベルト
16ミリ、カラー、28分
運転者、一般向
この映画は事故現場の取材を基に、数々の実験を用いてシートベルトの効果を実証し、さらに、いわゆる教条的な交通ルールの大切

さを説く次元から一歩進めて、他人にもケガをさせない、自分もしい「事故を起こさぬ気配りある運転法」をわかりやすく説いたものです。

二、魔の死角魔の油断
事故現場からの教訓
16ミリ、カラー、30分
運転者、一般向
今は、まさに混合交通の時代です。二輪車も四輪車も同じ道路を走っています。子どもや自転車の飛び出してもあります。いつ襲ってくるかもしれない危険に備えなければなりません。この映画は、救急車に密着取材して生々しい事故現場を記録し、これを分析することによって、ドライバーが他山の石として厳しい混合交通の中で、危険を予測し、悲惨な事故を起こさないための一助とするためのものです。

三、コアラちゃんの交通安全
16ミリ、カラー、14分
子ども向
子どもたちが待ちに待った人気者のコアラちゃんが動物園の休園日に、日本にカゲ君に連れられて、自動車が頻りに行かか街に出かけました。そして交通事故の恐ろしさ、交通ルールの大切さを実感するという交通漫画です。

○ 県下一の
広いコースで 早い上達を!

○ 伝統ある当校で
1日も早く免許証をあなたの手へ

財団法人
山梨県交通安全協会経営

公認 **山梨自動車学校**

八田村野鳥島1828 山梨県運転免許センター内
TEL 05528-5-0752